




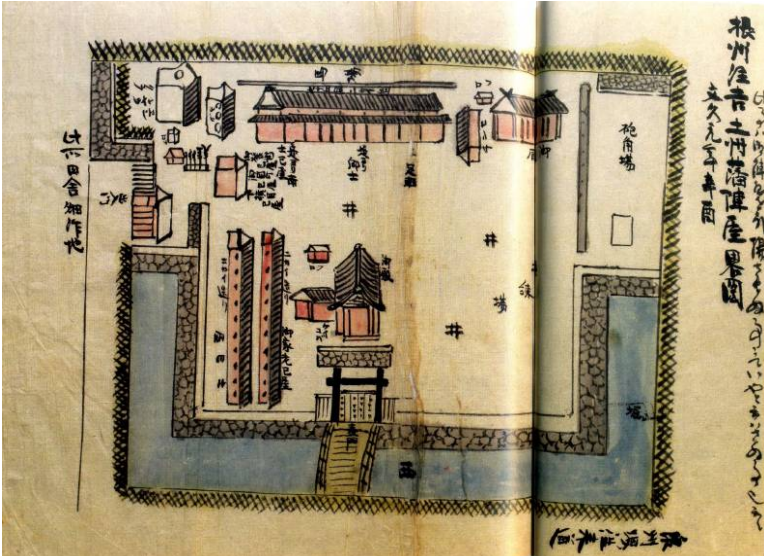



「堺事件」後の土佐藩士の足跡 ～土佐8番隊横田辰五郎の絵図を基に～


日付／場所	横田絵図	現在の風景
<p>(旧暦表示) 慶応4年 2月15日</p> <p>堺奉行所から出動</p>	<p>デュプレクス号のランチが旭茶屋前に碇泊</p> <p>6番隊、8番隊に出動命令が下る。</p>  <p>手旗を持っている人物が、箕浦、西村両隊長。</p>	<p>堺奉行所跡は、現在の市立殿馬場中学校と泉陽高校付近</p>  
	<p>フランス兵・土佐藩士遭遇の場所</p>  	<p>堺奉行所跡・旧堺市役所跡 Ruins of the Sakai Magistrate's Office·Ruins of the old Sakai City Hall</p> 

「堺事件」後の土佐藩士の足跡

～土佐8番隊横田辰五郎の絵図を基に～







<p>日付／場所</p>	<p>横田絵図</p> 	<p>現在の風景</p> <p>6番隊が前面に位置取る</p> <p>旧堺港</p>  <p>南台場付近(現在は菖蒲園)</p> 
<p>2月15日</p> <p>旭茶屋、御台場付近</p> <p>発砲</p>	 <p>旭茶</p> <p>善法</p> <p>お台場</p>	 <p>南北295m 東西195</p>  <p>寺境内にあった 龍神社</p>

日付／場所	横田絵図	現在の風景
<p>2月15日 土佐本陣 帰還</p>	<p>撰州住吉土州藩陣屋略図 「皆山集」94巻 東西約140m、南北約360mの広さ 約360人が常駐 東側(図面では上側)は上町台地の崖に面す</p>  	<p>現在の風景</p> <p>大阪市住吉区東粉河浜2丁目 東粉河幼稚園の北側</p>   <p>萬延元年(1860)に幕府より1万坪の土地を与えられ防備に当たる。</p> <p>本営に帰還</p> <p>下横目役が大坂長堀の土佐藩邸に馬を走らせる様子も *下横目とは大目付配下の監視役のこと</p> <p>軍旗 紺白紺模様は箕浦6番隊 紺白紺に丸三葉柏紋は西村8番隊</p>

日付／場所	横田絵図	現在の風景
<p>2月16日 住吉新家 4 天下茶屋の町屋 御池 御堂通り 町屋</p>		<p>現在の風景</p> <p>上の図:天下茶屋の町屋で昼食休憩 (住吉街道沿い) 下の図:大阪御池御堂通り6丁目の町屋で1泊</p> <p>御池とは和光寺境内にある阿弥陀池のことと思われる。 現在の住所は、大阪市西区北堀江3-7-27 * 和光寺:浄土宗 江戸期には1800坪の境内を持ち、周辺には47軒の茶屋があった。信州の善光寺と一体運営。</p> <p>文久3年の地図</p>  

「堺事件」後の土佐藩士の足跡

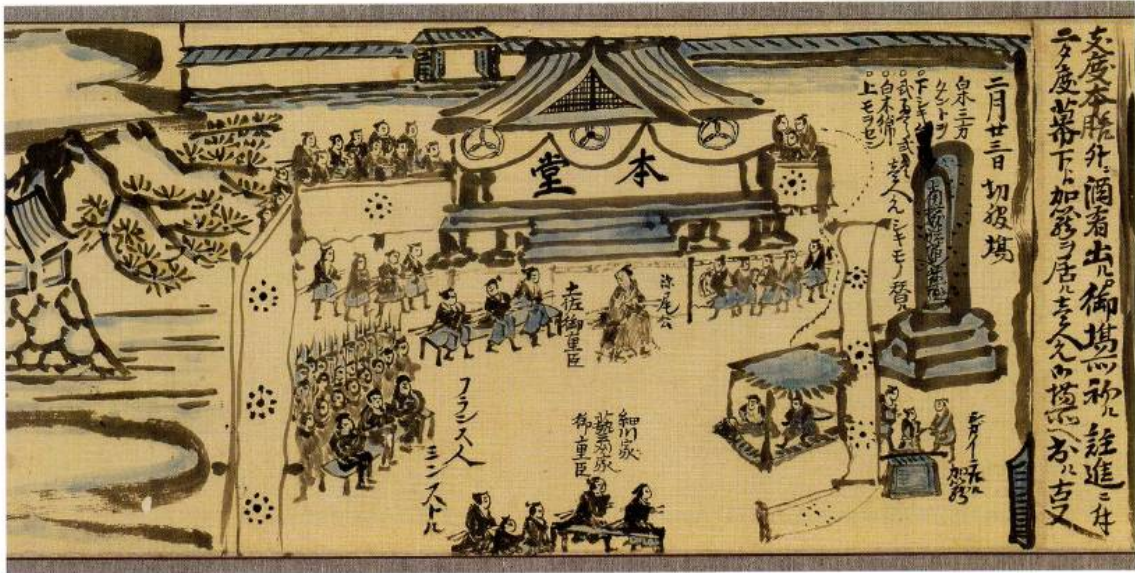



～土佐8番隊横田辰五郎の絵図を基に～

日付／場所	横田絵図	現在の風景
<p>2月17日</p> <p>5 土佐藩蔵屋敷</p> <p>軟禁状態</p>	<p>軟禁状態となる藩邸内の東御屋敷に二小队全員が詰める。</p>  	<p>土佐藩邸は長堀川を挟み東から白髪橋～鯉座橋～玉造橋の範囲</p>   <p>土佐藩邸がのびた場所</p>  <p>弘化2年の地図 土佐藩邸</p> 

「堺事件」後の土佐藩士の足跡

～土佐8番隊横田辰五郎の絵図を基に～

日付／場所	横田絵図	現在の風景
<p>2月22日</p> <p>6 土佐稲荷神社</p> <p>籤引き</p>	<p>運命の籤取り 手水場で身を清め、下横目に呼ばれた者から籤を引き、大目付の小南五郎右衛門に提出という流れ 白籤を引いたものが対象者で、エンマ堂の前に立たされている。</p>  	<p>土佐稲荷神社: 天正年間の創建(大阪市西区北堀江4-9) * 明治初年、土佐藩蔵屋敷とともに当神社は岩崎弥太郎に譲り渡され、岩崎弥太郎は当地で事業(九十九商会、三菱社)を営み、三菱の発祥の地となる。旧邸石碑は大阪市大の校門脇にあったが、大学の移転に伴い土佐稲荷境内に移された。</p>   

日付／場所	横田絵図	現在の風景
<p>2月23日</p> <p>妙国寺</p> <p>宝珠院</p> <p>切腹</p>	<p>妙国寺が切腹の場 立会人は、デュプレクス号艦長のプチ・トゥール、通訳、上官2名である。20名余りの水兵が武装して後方に控え。</p>  <p>* フランス人ミンストルとあるのは誤記 (Ministerの意味?)</p>  <p>4畳敷き程度の筵 上毛氈の敷物</p>	<p>現在の風景</p> <p>妙国寺(切腹の場所)</p>  <p>土佐藩士・仏兵犠牲者供養塔</p>  <p>土佐十一烈士の墓(宝珠院)</p> 

旧土佐藩邸周辺の主要史跡

(1) 阿弥陀池和光寺



第5代将軍徳川綱吉の命により、河村瑞賢が堀江川を開削。堀江33ヶ町が誕生。守護神として阿弥陀池和光寺が建立された。開祖は、善光寺第113世智善上人。智善上人は綱吉の側用人柳沢吉保の娘。

<阿弥陀池伝説>

境内の池から善光寺の本尊である阿弥陀如来が出現したことから阿弥陀池と呼ばれる。

近くに、「おこし」で有名な「あみだ池大黒」がある。

(2) 岩崎家旧邸址



明治3年、岩崎弥太郎が土佐藩邸の責任者となり、藩政務、蔵屋敷、大阪商会を取り仕切った。

藩邸は、鴻池や銭屋の抵当に入っていたが、岩崎弥太郎の九十九商会が借金を肩代わりし藩邸の大半の払い下げを受けた。

明治6年に三菱を名乗り本社を東京に移したが、土佐稲荷は三菱で守ることになった。その後、土地の一部は大阪市に移り、大阪市立高等西華女学校が設立され、敷地内に石碑が建立された。

石碑は現在土佐稲荷神社境内にある。

(3) 白髪橋



阿弥陀池門前筋に架かっていたので、阿弥陀橋とも言った。

「白髪」には、2説ある。1つは、土佐藩が国の白髪山から材木を伐り出し大坂に回送しこの辺りに材木市場を設けたことに由来。2つ目は、新羅の船が着いて貢物を奉ったので、「新羅が岬」といい、転じて「白洲崎」と言った。白洲崎が後世誤って伝わった。

付近の分離帯に、「大坂材木市売市場発祥の地」の石碑が立っている。

(4) 鯉座橋



土佐藩(24万2千石)の蔵屋敷が、この鯉座橋と玉造橋の西長堀川兩岸一帯を占めていた。右岸のは白洲観音堂があり、東西3丁は、土佐名産や鯉節の店が並んでいた。幕末には、土佐商会を設けて、鯉節以外にも紙、茶、砂糖など、南国の特産を商った。